|第5回生物の多様性を育む農業国際会議(ICEBA)2018









歌手・作曲家 木村弓さん



有機農業100%を目指すブータンからの報告



学校給食の有機化をはじめと する5つのテーマの分科会



生物調査はじめ5つの現地巡回



I環境に配慮した農産物のブランド化



JAL国内線ファーストクラスのおもてなし

M FAN PROVECT

/EON

千葉県

- 初秋を彩る地元食材を創作日本料理で~



Japan Airlines adopted the rice as in-flight meals of first class (2016)

日本航空ファーストクラス機内食に採用

公益的な視点を活かしたブランド戦略





首都圏のイオン 20店舗で販売中

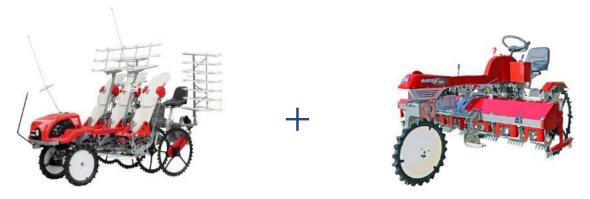
2019年の水稲有機栽培 収量アップに向けて

目標: 生産量の拡大 → ①反収の向上

- ②面積の拡大 ③会員(有機農家)を増やす

反収向上策:2つの新たな技術を導入、実証する

○抑草および発芽雑草対策 タイプ1「ポット苗 +ミッドマウント式除草機」



〇生育向上対策

タイプ2「土壌分析に基づいた施肥設計、秋処理、ミネラル、アミノ酸肥料、微生物 =BLOF理論に基づいた栽培理論」

園芸作物の有機栽培推進 について

■土着菌完熟堆肥で野菜の有機栽培も推進

いすみ市土着菌完熟堆肥センターの設立 2017年

- ●地域の未利用資源を活用して循環型の有機農業を促進
- ●水稲だけでなく小規模多品目の野菜でも有機栽培を推進していく



■オーガニックビジネス実践拠点づくり事業 いすみ市 2018年

これまで点と点のつながりだった有機野菜のプラットフォーム化に取り組む



栽培技術・経営力の向上に向けた取組



土づくり実証(太陽熱養生処理/BLOF理論)



栽培講習会(土壌分析法/BLOF理論)



ベテラン農家による栽培指導

2018年度の成果(有機野菜)

新規参入者2名、転換者1名を確保 面積H29 0.1ha → H30 0.4ha

|学校給食へ有機野菜を導入

学校給食有機野菜供給体制構築事業 2018年~

●給食センターの現体制で無理なく使用できる品目から優先 2018年度は、有機ニンジンと有機コマツナで試行

通常の給食野菜の流れ

青果店

県学校給食会

学校給食センター

市場の野菜が安定的に供給 されるシステム 地産地消は県内産を供給 地元野菜は供給できない

いすみ産有機野菜の流れ 品目選び~作付け、納入まで、定例会で協議-事務局:農林課

有機野菜連絡部会 市内生産者のネットワーク

直売所





作付け・出荷調整会議



学校栄養士による生育確認